

# 学校関係者評価報告書

学校名：あいちビジネス専門学校

1. 学校目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学園の建学の精神「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する。」</li> <li>・学生一人ひとりのニーズを満足させると共に、質の高い資格とスキルを持った良識ある職業人を育成する。</li> <li>・「こたえを出す学校」として「夢をかたちに」を実現する。</li> </ul>			
2. 学校目標に対する評価・意見			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念・目標と課題意識が明確であり、課題に対する具体的な対策も示されており、改善効果が期待できる。</li> <li>・教育目標や重点目標について、適切な評価だと考えます。</li> <li>・コロナ禍において、オンライン化などのハード面だけでなく、ソフト面でも適切な対策をし、積極的に課題に取り組む姿勢が今後も実績につながっていくと思われる。実際に入学数・在学生数とも伸び退学率が減少するという実績につながっており、非常に評価できる。</li> <li>・with コロナに適した学校環境の整備など、現場の努力が見受けられる。</li> <li>・コロナ禍で、今までとは異なる教育環境となったと思うが、職員・学生が協力し合い授業や対策が行われており、今後も感染対策を継続して学生生活を過ごしてほしい。</li> <li>・資格取得数が増加しており、試験まで学生をフォローしていたという結果であると思われる。</li> <li>・コロナ禍の難しい状況下、きめ細かい学生ケアによる退学率の低下、行事への学生の参加促進策など、改善への取り組みが結果に繋がるなど、学校目標に則した活動がしっかりと目に見える形になっており、評価できるものである。</li> <li>・オープンキャンパス等により、学生の求めるニーズや環境は十分に説明され、教育目標・卒業後までのサポートは適切であると感じられる。</li> </ul>			
3. 学校自己評価報告書についての評価			
	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方針が適切か
学校自己評価報告書基準	4：適切な評価である 3：ほぼ適切な評価である 2：やや不適切な評価である 1：不適切な評価である	4：十分適切な取組みである 3：ほぼ適切な取組みである 2：あまり適切とはいえない取組みである 1：適切とはいえない取組み	4：十分な効果が期待できる 3：ほぼ十分な効果が期待できる 2：あまり効果が期待できない 1：効果は期待できず、改善を要する
基準 1（教育理念・目標）	4.0	3.8	3.8
基準 2（学校運営）	3.9	3.5	3.8
基準 3（教育活動）	3.6	3.3	3.5
基準 4（学修成果）	3.9	3.5	3.5
基準 5（学生支援）	3.8	3.3	3.3
基準 6（教育環境）	3.6	3.6	3.8
基準 7（学生の受入れ募集）	4.0	3.9	3.9
基準 8（財務）	4.0	3.9	3.9
基準 9（法令等の遵守）	4.0	3.5	3.3
基準 10（社会貢献・地域貢献）	3.9	3.3	3.3
基準 11（国際交流）	3.9	3.5	3.5
4. 今後の改善方針についての意見と具体的な改善方針			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業は、一時的なものと思われていたが、今後は常態化しそうなので、引き続き、効果的実施方法の研究を行っていただきたい。今後も新たな感染症が出ることが十分に考えられるので、オンライン化の整備は必要。様々な企業でオンライン化が進んでいるので、オンラインの操作、仕組みは学生が理解しておくべきである。まだオンラインに慣れていない企業も多い中、学生が一通りオンラインについて知っていれば、企業としては、大変助かると思うので、検討いただきたい。 引き続き、オンライン化に向けた整備と学生への教育を進めていきます。具体的な利用についてマニュアルをもとに予行練習などを行い、オンライン化に対応した取り組みを実施していきます。</li> <li>・学外との交流事業や連携事業が中止・縮小になったケースもあったようだが、それらについてもオンラインの活用等での実施を検討してはどうか。また、それらの活用により卒業生の講義（企業や医療機関の現状など）の機会も増加するのではないかと。 感染症対策に気を遣いながら、学外の業界関係者の方に来校していただいた際の講演、指導は行っていますが、今後、オンラインの活用を検討、実施していきます。</li> <li>・医薬品販売の場面でも、ICT 活用は避けられない（国策もその流れ）。IT 系授業以外の場面でも、端末等に触れる機会をより多く、作っていただきたい。 ICT 化は単にパンデミックや災害の対応目的ではなく、“自ら学べる”教育を目的とし、大量の情報を収集、整理、分析できる人材育成のため推進していきたい。ノートPC、パソコンにとらわれず、個人で所有するスマートフォンや端末を利用することも検討します。</li> <li>・入学者数が十分に確保され、また今後もその数が見込まれるのであれば問題はありますが、学生数の確保の方策として、社会人で学び直したいと考えている人、大学等への進学がミスマッチだったと悩んでいる人は潜在的に存在します。その人たちを取り込み、学生数を確保することは新規の開拓として検討できると考えます。 大学、短大、高等専門学校を中退した学生は前年同時期より増加傾向であるとのデータもあります。そのような方たちにとっても、より良い進路選択となるよう検討していきます。</li> </ul>			

- ・オープンキャンパスでは、在校生が主体的にスタッフとして参加してPDCAサイクル確立しているとのことだったが、学生の実践の場・力を発揮する場として、同様に社会貢献や地域貢献の場や企業とのつながりのなかで、在校生が主体となって進められる機会を作っていったらどうか。  
学校からのアルバイト紹介は増加傾向にあります。医療機関でのアルバイトが先輩から後輩へとつながっていくケースも見られるようになってきました。コロナ禍でも学生が社会貢献や地域貢献できる場の提供を心掛けていきます。
- ・即戦力として期待できる専門性や、各種業界とのつながりが専門学校の特徴であると考えますが、貴校にかぎらず実習を受け入れた学生からは学校ごとの特性・個性を感じられません。専門学校である優位性と「あいビ」の学生であるからこそその強みが持てるような学びや指導を期待します。  
資格取得やスキルの習得のみにとらわれず、人間性の向上を図るための教育に力を入れていきます。まずは、笑顔で挨拶ができる、声かけられる感じの良い学生を育てていきたいと考えています。
- ・リスタート面談など、学生支援の新たな取り組みについては継続して充実させて頂けることを期待する。  
リスタート面談などの個別面談、保護者連絡など継続していきます。
- ・「卒業生の再就職支援」については、今後の「既卒者向け求人情報の学内共有」等の取り組みに期待をしています。  
既卒者向け求人について、学内のイントラネットを活用し、まずは教職員間での情報共有を図っていきます。
- ・感染症拡大状況下では、社会貢献や地域貢献への取り組みはなかなか難しいと思いますが、ボランティア活動への支援をお願いしたいです。ボランティアを募集している老人ホームや介護施設、ゴミ拾いのボランティアを募集しているところもあると思います。また、SDGsについてグループワークなどで地球環境について、自分たちが何をできるのかを考えるのもいいと思います。  
コロナ禍でも可能な社会貢献や地域貢献（例：ネットでのコロナワクチン予約の補助、献血）を継続してほしいです。  
卒業研究のテーマとしてSDGsを取り上げているケースは増加していますが、今後授業での題材として取り上げていきたいと思っています。ボランティア活動については、可能な限り情報を学生に周知できるようにしていきます。
- ・毎年の自己評価(委員会評価)と課題認識とそれらに基づく取り組みが次の年度にどのような行動、結果に繋がっているか、そういったものが分かる評価方法への改善を検討ください。  
今後の課題とさせていただきます。